

令和6年度 林業普及週間現地情報(8/12～8/16)

森林管理課

地域材利用促進モデル事業に係るクスノキ人工乾燥の実施

8月14日(水)

令和6年8月6日、クスノキ材の人工乾燥実施に係る調整のため、今帰仁村地域材利用促進プロジェクトチーム(以下、チーム)の関係メンバーにより現地調整を行った。当日は製材・乾燥業者、沖縄北部森林組合、県森林資源研究センター等から参加があった。

昨年度から実施している地域材利用促進モデル事業では、これまでに今帰仁村内のクスノキ林を収穫伐採し、製材を行い、昨年12月から製材した板の天然乾燥を行っている状況であり、この度1回目のクスノキ材(30mm厚)の人工乾燥を実施した。本県においては、クスノキを含め、広葉樹材の人工乾燥は実績が少なく、乾燥技術が確立されていないため、森林資源研究センターでクスノキ材の乾燥試験を本事業と連携して実施している。12月より7か月程度天然乾燥したクスノキ材は含水率が20%未満まで下がっていたため、人工乾燥を実施することとした。乾燥スケジュールについては、チーム内メンバーが過去に実施したスケジュールと森林資源研究センターによる研究結果を参考に決定した。また乾燥機内に試験材を入れ、毎日含水率を確認してスケジュールを調整することとした。その結果、5日間で目標の含水率8%以下まで落とすことができ、大きな割れ、変形もなく完了した。

今回得られた知見は市町村職員等へ共有し、樹種や板厚等によるものの、広葉樹材でも比較的短期間で材として利用できることを知ってもらうことで、地域材利用の促進に繋げていきたい。



調整の様子



人工乾燥後のクスノキ板材

(報告者：北部農林水産振興センター 仲里、佐野、西岡、國吉)